

根拠を読む 答えを作る

高校入試につながる標準から応用

高校入試を意識した読解の総合演習です。制限時間の目安は60分、全32問・100点満点。A・B・Cは各20分を目安に取り組みましょう。選択問題は最も適切なものを一つ選び、記号で答えます。抜き出しは本文どおりに書きます。記述の字数には句読点も含め、数字・記号も一字ずつ数えます。本文の段落番号は各大問で数え直します。

1 問いを分けて時間を配る

60分をA・B・Cの各20分に分ける。記述は問8・10・18・20・32の5問。手が止まったら本文の根拠に印を付け、他の設問を進めてから戻ろう。各大問の最後に、答えの書き忘れを確認する時間を残す。

2 対立ではなく条件の違いを読む

論説文では、「情報を省く／増やす」のどちらか一方を正解にしない。誰が、何のために使うかという条件を整理する。具体例が主張のどの部分を説明しているか、段落同士を線で結んで確かめよう。

3 選択肢は一部分ずつ照合する

選択肢が長いときは、主体・理由・結果に分けて本文と照合する。「必ず」「全員」「だけ」などの限定も確認する。ただし、その語があるだけで誤りとは決めず、本文に十分な根拠があるかを見る。

読み方を確かめる

学習ポイント つづき

4 動作の前後に心情の根拠を探す

小説の動作には複数の気持ちが重なることがある。指を伸ばす動作と離す動作を、直前の不安や決断と結び付ける。出来事の前後を比べ、変わった点だけでなく、残っている気持ちにも注目しよう。

5 記述は必要な要素を先に並べる

問われた内容を二、三の要素に分け、本文中の根拠を拾ってから一文にまとめる。理由なら「～から」、変化なら「初めは～だが、～を経て、～」を骨組みにする。字数に合わせるために、必要な要素を削らない。

6 表の分母と条件を確かめる

人数を見る前に、対象・期間・回答者数・単位・選択方式を確認する。全体と一部の集団では最多の項目が違うこともある。希望の回答から、実際に来る人数や変更の効果まで決め付けない。

7 採点のあとに根拠へ戻る

丸付けでは正誤だけでなく、解説にある根拠の段落や資料を読み直す。記述は採点基準に沿って足りない要素を確認し、自分の表現で書き直す。合計点は今回の教材内の目安であり、入試の合否判定には使わない。

本文・資料・設問は本教材のために作成したオリジナルです。登場人物・学校・調査データは架空です。